

茨城県 社会福祉士会 NEWS

NO. 56

発行 一般社団法人 茨城県社会福祉士会
Ibaraki Association of certified Social Workers

発行日 平成28年11月29日<2016. 11. 29>

編集 広報事業部

事務局 〒310-0851

茨城県水戸市千波町1918

茨城県総合福祉会館内

Tel : 029-244-9030

Fax : 029-244-9052

ホームページ <http://www.csw-iba.org/>

Eメール csw-iba@csw-iba.org

第1回 社会福祉士共通基盤研修を開催しました！ in いこいの村 涸沼

10月1日～2日にかけて鉾田市にある「いこいの村 涸沼」を会場に第1回 社会福祉士共通基盤研修を開催いたしました。

1日目は「さまざまな分野で相談支援活動をするソーシャルワーカーの想い」をテーマに相談援助領域のシンポジウムを開催。ここでは当会の竹之内会長がコーディネーターを務め、パネリストの茨城県教育委員会・笠間市教育委員会 SSW の福島恵美氏からは「スクールソーシャルワーカーについて」、社会福祉法人芳香会 茨城県地域定着支援センターの酒寄学氏からは「罪を犯した障害者・高齢者への福祉的支援～茨城県地域生活定着支援センターの実践から～」、古河市高齢福祉課の相良有美氏からは「市の福祉行政職として～今までの取り組みとこれからについて～」というテーマでお話して頂きました。

そして2日目は東北福祉大学総合福祉学部社会福祉学科長の三浦 剛 教授を講師にお迎えし、「ソーシャルワークを再考する」というテーマで地域支援領域の講義と演習を行いました。ソーシャルワークの基盤となる価値や倫理について改めて振り返ることができた研修となりました。大切なところはブレないように日々の仕事に取り組んでいきたいものですね。



目次、共通基盤研修を開催しました…1

2016年度 第1回 共通基盤研修を受講して…2

ソーシャルワーカーデー「ふだん（普段・不断）」の関わりを…3

ソーシャルワーカーデー中央集会に参加して…3

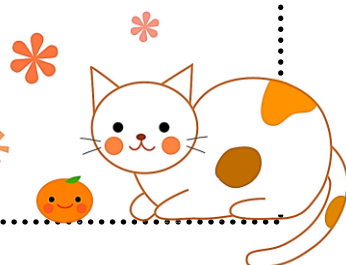
県央ブロック研修会「2年目を迎えた生活困窮者自立支援制度の現状と課題」に参加して…4

会員の声「8050問題にどう向き合うか」…5

ブロック活動報告…6～10

（県北ブロック、県央ブロック、県南ブロック、県西ブロック、鹿行ブロック）*

編集後記・・・10



2016年度 第1回 社会福祉士共通基盤研修を受講して



県南ブロック会員

今年度第一回共通基盤研修で1日目に茨城県教育委員会の福島 SSW、茨城県地域定着支援センターの酒寄さん、古河市高齢福祉課の相良さんからそれぞれの課題や心がけている事、2日目は東北福祉大学社会福祉学科の三浦剛教授に講義をして頂いた。

三浦教授からは「社会資源の開発の視点と方法を学ぶ」という角度からの講義で、自閉症児施設での実践から、自閉症児が「自傷」をしてしまう事を自閉という障害によって自傷すると見るのではなく、そうしてまで伝えたい事があるコミュニケーションの手段ととらえ、同時に自傷していない状況を把握する。そして関係性の中でより人として受け入れられやすい方法に変えてもらう、そして環境を整備する為に家族の理解や新たな資源の開発が必要なら、日頃の支援の評価・価値に説得力を持たせるため評価に利用したデータを数値化し関係者にその必要性を説明する。事象のより確かな証明をしていく事（時間や職員によって結果が違う場合何故違うのか等）がその人の生活向上に資するものになり、必要なニーズを満たすサービスが不足しているならば得られた結果からの評価を基にサービスを創り出すことに社会福祉士のアイデンティティがあると力説された。

支援の中の課題に必要なサービスを創り出せるだけの説得力のあるデータを持ち合わせていない自分の現状であるが、しっかり課題に向き合い当事者の方に資する提案をしていける様にしなければと感じた。



ソーシャルワーカーデー「ふだん（普段・不断）」の関わりを



椎名 清和

ソーシャルワーカーデーの活動を、本会および茨城県ソーシャルワーカー協会、茨城県精神保健福祉士の三団体合同で実施し始めてから3年になります。まだまだ「共同」開催と言うのも面映ゆく、基礎固めのための地ならしが、ようやく終了した段階のように思えます。

縦割りの社会において、横ひもをとおしていくのがソーシャルワーカーのあり方の一つでだと思いますが、我々は、自身が「つながる」ことによって、他を「つなげる」ための支援ができるのではないのでしょうか。「つながる」ことは言い換えれば、「引き受ける（関わる）」ことでもあります。

興味関心のあることに関わることは仕事に直接的な深みを与えます。それはよいことではありますが、そればかりでは同時に視野を狭くもするでしょう。ジェネラリストとして物事を包括的（多面的）にみていくためには、視野の広さや発想の豊かさが必要です。ソーシャルワーカーという共通点を持ちながら、異なる領域で活動するMSWやPSWとの活動は、そうした視野の広さや発想の豊かさを育むためのきっかけになり、仕事に幅を与えてくれるでしょう。また、連携を協働の段階に進めていくことにもつながっていくと思います。



ソーシャルワーカーデー中央集会に参加して



鈴木 香織

7月、『ソーシャルワークの楽しさ・こわさ・醍醐味～人々の尊厳と価値の促進～』をテーマとした講演を聴講しました。

シンポジウムで登壇された方々は10年以上有る現場においての経験の中で疑問を持ち、矛盾を知り、壁にぶつかり、そして新しい試みに取り組んでいる、そんな日々の姿と現状を伝えて下さいました。

中でも生活保護の観点から出発され、貧困・ホームレス等への取り組みをされている『ほっとポット』の活動報告で、頼ってくる全ての人を平等に全て受け入れられず、（健康だから、働けるだろうから）と線引きをし、ふるい落としをしている現実、福祉は最後の砦にすらなり切れていない現実に葛藤しつつも、今出来ること、に取り組む、最初の要となろうと話す言葉が印象深く、残りました。

また、特別講演では田代まさし氏が“当事者”としての体験を軽妙に、だからこそ深刻な問題である事を感じさせる、世間の依存者に対する偏見や負のスパイラルの存在、ネット社会における不明確な情報拡散の怖さ等についての話をされ、現在蔓延しつつある薬物依存者への更生に向けた福祉分野における支援や取り組みの遅れと困難さ、必要性を強く感じました。

今回の聴講は学生の参加も多く、内容も将来に向けてのメッセージが込められていることが多くあり、正直なところ、発表者のパワーと行動力に羨望を覚えました。

しがらみを解き、信念を持って挑戦することは今の自分には到底叶わない事ではありますが、社会福祉士として・組織として、そして個人として、何が出来るのか、何が求められているのか、様々に考える時間となりました。

県央ブロック研修会「2年目を迎えた生活困窮者自立支援制度の現状と課題」に参加して



横須賀 優

平成 28 年 10 月 8 日総合福祉会館において、笠間市社会福祉協議会自立相談支援事業の主任相談支援員の片岡氏、就労支援員の柿長氏、相談支援員の小林氏を講師として迎え「2 年目を迎えた生活困窮者自立支援制度の現状と課題」の研修会に参加しました。

当日配られた資料である「被保護者調査結果」によれば、平成 27 年 4 月現在生活保護の被保護人員は 216 万人であり、平成 23 年に過去最高を更新して以降増加傾向が続いている。内訳としては「高齢者世帯」と、稼働年齢層であると考えられる「その他の世代」が増加し、8 年間で 2 倍を超える伸び数となっている。生活保護という状況までには至らない生活困窮の課題を抱えた方も同様に増加していることが十分に予想されます。

そのような社会情勢の中生活困窮者自立支援制度が平成 27 年 4 月から開始されました。

この制度は、生活保護に至っていない生活困窮者に対する「第二のセーフティーネット」を全国的に拡充し、包括的な支援体系を創設するものです。生活と就労に関する支援員を配置しワンストップ型の相談窓口を開設し、一人ひとりの状況に応じて自立に向けた支援計画の作成、訪問支援（アウトリーチ）や寄り添い支援を特徴としていますとのことでした。

私自身の仕事では、高齢者や障がい者等の区別なく様々な課題を抱える家庭を支援する仕事を行っています。特に複数の課題を抱えている家庭において共通している課題の根っこに生活困窮があるのではないかと感じる人が多いです。

生活困窮に課題のある家庭では、介護保険や障がい福祉サービス等の単独の制度だけでは問題の根本解決に至らず、どれだけ支援をしても前に進むことができなくなってしまうことが多々あります。

生活困窮者自立支援制度で特に注目したいのは就労支援員の配置です。これまで見過ごされがちだった稼働年齢層に対して支援を行っていくのは、大変意義があると思います。制度がしっかりと機能すれば、個別のケースだけでなく地域全体の福祉の底上げに繋がっていくのではないかと思います。

今回の研修では新しい情報や知らなかったことが多々ありました。今後、自立相談支援事業とも連携を図り仕事に活かしていきたいと思います。



「8050問題にどう向き合うか」

水戸市北部高齢者支援センター 酒寄 之枝

8050、あるいは7040問題。80代の親と50代の子、70代の親と40代の子。子が経済的にも精神的にも自立していれば、さして大きな問題はない。しかしながら、地域には50代（40代）の子が定職に就け（か）ず、80代（70代）の親の年金で生活しているケースがそう珍しくなく存在する。

80代の認知症の母親と、50代前半で突然仕事を辞めてしまった次男。自宅は猫屋敷。母親は栄養状態不良。介護保険サービス等は利用しておらず、適切な世話もなされていない。脱水で救急搬送されたが、次男は衰弱している母親を放置。親類が受診するよう勧めても聞き入れず、最終的に救急車を呼んだのは訪ねてきた親類だった。

70代の母親と、40代の長男。父親は認知症のため入所。長男は30代前半で仕事を辞めてから閉じこもりの生活。母親に酒とつまみを買ってくるように要求。時には母親に対して暴言・暴力もあったらしい。虐待ケースとして、母親に分離の提案をするも「息子がこうなったのは、私の育て方が悪かったから」と、分離を拒否。母親が転倒し入院中に、長男は自宅で病死。孤独死だった。

80代の母親と、50代の閉じこもりの長男。長男は気に入らないことがあると、母親を怒鳴る。さらに、今年に入り路上で大声を出したり、半裸で道路に寝ているなどの奇行が目立つようになり、民生委員より通報。精神疾患が疑われるが、母親は「大ごとにはしたくない」。長男は真夜中に交通事故で死亡。路上で寝ていたか座っていたものと思われる。

ここに挙げたのは、昨年4月、当センターが市からの委託を受け、業務を開始してから担当したケースのほんの一部である。高齢者支援センターであるため、私たちが支援をするのは「高齢者」であり、40～50代は支援の対象とはならない。何らかの機関に繋がたいと思っても、心を閉ざし、支援を望まない彼ら。「どうせ俺なんて・・・」。悲痛で投げやりな心の叫びを感じながらも、高齢者を通じて見守るしかないのが実状だ。しかし、定職を持たず、多くが無年金という彼らは、親が亡くなった後、どう生計を立てていくのか。近い将来の生活は容易に想像がつく。

「支援の隙間世代」と言われる、18歳以上64歳以下の人たち。本来、「支える側」である世代を「支えてくれる」制度や政策は皆無に等しい。

去る10月2日（日）、「いこいの村 涸沼」で開催された共通基盤研修。三浦剛氏からの問いかけは、「生活困窮者自立支援法を作ったのは、社会活動家の湯浅さんたち。本来は社会福祉士が考えるべき制度だったのではないか」。ミクロ・レベルからマクロ・レベルへの支援へ、ソーシャルアクション。8050問題に対して、私たち社会福祉士にできることは何か。会員の皆さんと一緒に考えてみたい。

★新規入会会員大募集中です★

職場やご友人に社会福祉士の資格をお持ちでまだ社会福祉士会に入会されていない方はいらっしゃいませんか？また、新たに社会福祉士国家試験に合格した方はいらっしゃいませんか？もし身近にそんな方がおりましたら、ぜひぜひ社会福祉士会への入会のお声かけをお願いいたします。

茨城県社会福祉士会事務局にも入会申込書を準備しております。お電話を頂くか、ホームページ（<http://www.csw-iba.org/>）にある入会申込書請求フォームから入会に必要な書類を請求できますので、大いにご活用くださいね。





北の国から

～県北ブロック通信～

○ラインメンバー募集中

毎回本音トークでメンバーが少しずつ増えています。

みなさん参加をおまちしています。

今回から、ブロック便りを担当致します、県北 広報の石井です。よろしくお願い致します<(_ _)>

9月 15 日に「県北ブロック 本音トーク」を日立市 一徳園で開催致しました。今回、新たなメンバーも加わり、徐々にではありますが、グループの輪が広がりつつあるところです。

今回は、大みか けやき荘の大貫さんにテーマをお願いしました。自らが思う「仕事像」とのギャップなどを率直に話していただきました。

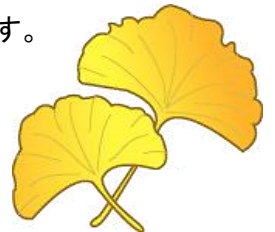
ここに集まって来るメンバーは職種/業種 様々で、それぞれに「自らが思う仕事像とのギャップ」に悩まされる場面が多いか？と思われます。

これからも、こうした場に於いて、それぞれの想いを共有出来る場にしたいと考えております。

次回の「本音トーク」は、常陸太田市の「ばんどう太郎」にて、1 月 20 日に開催予定です。

毎回、楽しい場にしたいと思っています。

それでは、また。



携帯電話やスマートフォン等を利用した連絡網への登録をお願いします！

郵送費等の低減と会員の皆様への情報提供の迅速化を目的とした連絡網システム（マ・メール）へのご登録をお願いいたします。

①迷惑メール防止機能をご利用の方は「mamail.jp」からのメールを受信できるようにご設定ください。

②csw-ibaraki@mamail.jp に空メールを送信してください。

③折り返し送られてきた「入会お礼メール」の本文末に記載されているリンクをクリックし、プロフィール入力画面にしてください。

④表示された画面でプロフィールを入力し、[登録]をクリックして登録完了です。

※登録は、一人につき一つのメールアドレスに限定して頂けるようお願いいたします。



茨城県社会福祉士会のFacebookページもよろしくお願いします！

<https://www.facebook.com/csw.ibaraki>



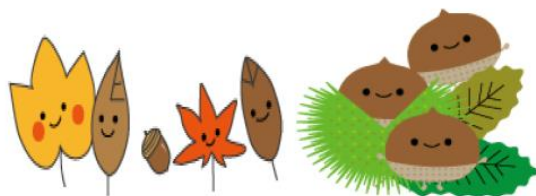
各種お知らせや研修会の様子等を発信しています。

皆さまぜひ「いいね！」やフォローをお願いいたします！

※「いいね！」などのご参加を頂くには Facebook への登録（無料）が必要となります。
Facebook に登録しなくても閲覧は可能です。



県央ブロックだより



こんにちは。秋が深まってきていますが皆さまいかがお過ごしでしょうか。

夏からの活動を振り返りますと①東京研修、②研修会の機会を設けてみました。

これからも会員の皆様からの要望に応えられるような研修を企画したいと考えていますので、ぜひ、このような研修を開催してほしいという声をお寄せ頂きたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

また、懇親会も定期的に行っており親睦の場になっています。ぜひ酒宴でもお会いしましょう！！

① 東京研修 7月18日(祝)

<ソーシャルワーカーデイ2016中央集会>

1>特別講演：田代まさし氏

「当事者が語る薬物依存からの脱出」講演

2>シンポジウム という2部構成でした。

田代氏は薬物はすぐに手を伸ばせば届く身近な所で蔓延しています。

自分の意志だけではやめるのは難しいので一緒に頑張っている仲間たちと苦しみ进行分かち合って、互いに支え合い、一緒に歩みながらやめ続けることが大切であり、そのような場が必要です！！と強調されていました。

県央ブロック会員、鈴木香織さんが感想を執筆して下さいました。ありがとうございました。

② 研修会 10月8日(土)

「2年目を迎えた生活困窮者自立支援制度の現状と課題」

(笠間市の取り組み状況について)

笠間市社会福祉協議会、生活支援グループ片岡氏、柿長氏、小林氏を講師にお招きしました。

チーム笠間市社協の取り組みをご説明下さりオール笠間市で対応した事例をもとに、活発なフロアーとの質疑応答が交わされました。笠間市職員の方々や県内の社協にお勤めの方々も多数お集まりいただきました。

県央ブロック会員、横須賀優さんが感想を執筆して下さいました。ありがとうございました。



◆忘年会のお知らせ◆

■日時：12月17日(土) 18:00～

■場所：水戸サウスタワー10F

個室居酒屋 桜坂✿

組織強化担当

荒川・長田

県南ブロック活動報告

ホームページ ⇨ <http://ibanancsw.hp2.jp>

寒さが厳しくなってきましたがいかがお過ごしでしょうか？県南ブロックでは今後も定例会議、忘年会、研修会など計画しておりますので、寒さに負けず皆様ぜひぜひご参加くださいね！いつも参加している方も、まだ参加したことがないという方も集合ですよ～。まずはお互いの顔を知ることから。共に学び交流を楽しみましょう！

会員交流バーベキューin 牛久シャトーを開催しました！

県南ブロックでは夏の恒例行事となりつつありますが、今年も8月20日に牛久市にあるシャトーカミヤバーベキューガーデンを会場に会員交流バーベキュー大会を開催いたしました！今回は32名と過去最大の参加人数が集まり、初めて方も何名かいらしてください嬉しい限り♪県北ブロックからもお1人、遊びに来てくださいましたよ！天気予報では雨が心配されておりましたがお天気にも恵まれ、美味しいお肉を頂きながら地ビールやワインを片手に大いに盛り上がりました。和気藹々とした雰囲気の中で会員同士の交流を深めることができました。



学び合いの時間を開催しています！

定例会議の際に開催をしている会員による会員のための学び合いの時間。

10月は法務省の東日本入国管理センター（牛久市）で面会ボランティアをされている井上会員を講師役に、入国管理センターの役割や現状について学びました。

もともと一時的な滞在を前提に作られた施設にも関わらず、数か月から数年という長期滞在を強いられている収容者も多いとのこと、日当た不良など施設環境の問題や、障害のある方や言語が話せない方への対応の課題もあるとのことがありました。



★今後の活動予定★

《学び合いの時間の担当》

- ・12月定例会議 布川会員（ポニーの家）
- ・2月定例会議 山口会員（龍ヶ崎市役所）

《研修会》

2月頃にアサーション関連の研修会を開催する予定です。詳細は決まり次第、県南ブロックホームページ等でお知らせいたしますのでお楽しみに！

★次回のブロック定例会議★

12月17日（土）18時～
土浦市役所 男女共同参画センター研修室
終了後には忘年会を開催します!!

詳細は県南ブロックホームページで☺



けんせいいつうしん

もうすぐ師走…。この間、お盆だと思ったのにあっという間ですね。皆さんにとって、今年はどうな1年でしたか？ブロック活動が何もできておらず、本当に申し訳ありません。来年はなんとかしたい…と思っています。ご協力の程よろしくお願いいたします。さて、今回のリレートークは、古河市役所の池澤さんです。



リレートーク 5

県西ブロックのみなさま、こんにちは。池澤健嗣です。

私の勤務先は古河市役所です。現在は子育て支援課という部署で各種手当や相談の担当（役職は課長補佐）をしています。市役所は18年目。主に福祉事務所に当たる部署に所属していました。それ以前は、東京都の文京区や、民間の発達障害児の療育機関に務め、振り返ると、福祉に携わってもう25年近くになります。

福祉士の資格の取得は平成10年、同年、県士会（当時は支部）にも所属しました。同世代の福祉士の方々と比べるとかなり遅れたスタートでしたので、同世代や多くの諸先輩方に追いつこうと、30歳代のころは本当にがむしゃらに勉強したことを思い出しています（今はもう、ただの中年オヤジとなっていますが…）。

今年4月、認定社会福祉士認定・認証機構から「認定社会福祉士」の認定をいただき、また、機構の「スーパーバイザー」としても登録されました。それを契機に、今年から、県士会の共通研修のファシリテーターや会員のスーパービジョンを引き受けさせていただいており、少しでも、これまでの恩返しができればと思っています。

先日、県西地域の会員からの依頼で、県西地域のMSWが集まる勉強会に講師として招かれました。当日は、若い世代のCWの仕事に対する熱意に敬意を抱かされるとともに、逆に、私の方が彼らから学ばされるという貴重な体験をしました。最近、管理職という役職のため、地域のCWと直接的にかかわることが少なくなっていましたので、不謹慎かもしれませんが、現場の最前線で働く方々とのやり取りは、私にとって本当に楽しいひとときでした。

ならば、県西ブロックの活動にも、もっと参加・協力しなくては…と、反省しているところです。「SWカフェ」などの企画がまたあれば、ぜひ参加してみたいと思っています。そこで、また、県西の会員のみなさまとお会いできること、楽しみにしています。

※次回は『友愛記念病院 渡邊 希代光さん』へバトンタッチします。

イベント告知や勉強会等の案内などがございましたら、お知らせください！また、マメールへの登録もお願いします！
県西ブロック 岩田 mymiwt910@icloud.com





鹿行ブロック活動について



鹿行ブロック第 1 回研修会報告（開催日：9 月 17 日（土））

研修名：子どもにやさしい空間

災害や事故。子どもたちは一瞬にして「日常」という支えを失います。避難所で、地域で、みんなができる子どもの居場所づくり。「こどもに優しい空間」を設置・運営する具体的な方法、子どもの心身の回復、日常生活を取り戻す助けの方法を学びました。

講師：災害時ここの情報支援センター 大滝涼子先生（臨床心理士）

潮来市巡回支援専門員

久保千晶先生（臨床心理士）

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 赤坂美幸先生

場所：レイクエコー 茨城県行方市宇崎 1389 番地

参加人数：19 人

参加者の声

- ・講師の講義とグループワークを通して、災害時の課題と課題解決に向けた方法について講師の指導の下で参加した皆さんと具体的な方法について学べたことは大変良かった。
- ・熊本震災で活動された赤坂先生の現場での活動の話をもう少し聞きたかった。
- ・支援する側も心と体を平静に保つことが大切。大滝先生のヨガによるリラクゼーションはとても良かった。



【編集後記】

今年も残りわずか、クリスマスや年末年始の準備に忙しくされている方も多いのではないのでしょうか。11 月 24 日は早々に雪が降り、これから寒さも本格的になっていきます。既にインフルエンザが流行し始めているようですので手洗いうがいできしっかり予防していきましょう。

茨城県社会福祉士会では年明けからも 2016 年度第 2 回共通基盤研修、定時総会、各ブロックでの研修会などの開催を予定しております。内容が決まり次第随時お知らせしてまいりますのでぜひぜひ予定に組み込んでいってくださいね！

本年はお世話になりました。来年もどうぞよろしくお願いいたします。
新しく迎える 1 年も皆さまにとって素晴らしい年になりますように☆彡

広報報事業部